

ひまわり会NEWS

Vol.24

大阪千代田短期大学 〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町 1685 TEL 0721-52-4141 <http://www.chiyoda.ac.jp/>

会 報

大阪千代田短期大学

発行：ひまわり会 2025.8.1

〒586-8577
千代田学園 気付 同窓会事務局
TEL:0721-69-6120 FAX:0721-52-5782
<http://www.chiyoda.ac.jp/dousoukai/>
E-mail: dousoukai@chiyoda.ac.jp

ミニ通信 (通信はがきより掲載)

H・K (16 期生)
素晴らしき発展している千代田短大、すごいですね。魅力的な学校になって嬉しいです。ひまわり会ニュース楽しませていただいています。お世話してくださっている皆様ありがとうございます。

N・Y (54 期生)
産休・育休後 4 月復帰しています。子育てとの両立は大変ですが、毎日頑張っています。

N・Y (14 期生)
卒業してから 45 年。元気に過ごしています。千代田短大の更なるご活躍と、ご発展をお祈りしております。

T・H (11 期生)
今年で 68 才になる私ですが、昨年特別支援学校 2 級の免許も取りました。今は、特別支援学級を持っています。

I・Y (27 期生)
娘がオープンキャンパスで何度もお世話になりました。受験することを決めてくれました。母校なので嬉しいです。親切に話をしてくださってありがとうございました。先生方の優しさに背中を押されたのかなとおもいます。

N・W (38 期生)
国立病院機構中国四国ブロック内の病院を異動しながら、現在はとくしま医療センター西病院で勤務しています。病棟保育、ポストNICU、重症心身障がい児に携わってきましたが、現在は筋ジストロフィー、神経難病の方と関わらせていただいております。本当に日々手探りですが、「保育士」であることを念頭に頑張っています。会報が届くと短大を思い出しています。

S・A (49 期生)
卒業してから就職し 10 年が経ちました。毎日、子ども達と楽しく過ごしている事がとても幸せです。大変と思う事もありますが、この仕事を続けていると嬉しい事がたくさんあり楽しいです。

T・E (10 期生)
去年 70 歳を迎え、孫達に囲まれ、忙しく毎日を送っております。デイサービスには毎週火水金通っております。

H・Y (32 期生)
卒業してすぐに結婚し、職にはついていませんでしたが、現在は保育士として障がい児の子どもたちと楽しく過ごしています。

小山田祭

日時 10 月 25 日(土) 受付 9:00~

参加される同窓会のみなさまは、同窓会テントで受け付けをしてください。ひまわり会より記念品を進呈いたします。

記念品…ファイル・ボールペン・バザーチケット

交通アクセス

南海高野線「千代田」駅下車
本学への直行バスで約 12 分
(午前 8 時~10 時台に出ています)
路線バス「⑩緑ヶ丘北町」行き
「東峯口」下車すぐ。

近鉄長野線・南海高野線「河内長野」駅下車
本学への直行バスで約 14 分
(午前 8 時台に出ています)
路線バス「⑪⑩緑ヶ丘循環」行き
「東峯口」下車すぐ。

大阪千代田短期大学

新役員紹介

会 長 (幼教 16 期) 松原 栄子	書 記 (幼教 52 期) 西田 茂
副会長 (幼教 5 期) 仲村佐江子	会 計 (幼教 4 期) 寺坂佐恵子
副会長 (幼教 16 期) 大仲 明美	会 計 (幼教 14 期) 森 寿美
副会長 (幼教 36 期) 本田 和隆	会計監査 (幼教 5 期) 柴田 礼子
副会長 (総コミ 6 期) 西浦 良治	会計監査 (総コミ 3 期) 順西 央
書 記 (幼教 4 期) 堤 和子	

よろしくをお願いします

同窓会事務局より

※住所・姓名変更された方は、同封のハガキにて同窓会までお知らせください。問い合わせがふえています。お友達の変更も教えてください。ハガキには必ずご記名ください。

※3 名以上でミニ同窓会を開かれたら同窓会へ通信をお願いします。

※送ってくださった方に、粗品を進呈いたします。

※最近、同窓会を名乗り、個人情報を引き出そうとする事態が発生しています。本同窓会は、個人に対してそのような行為は一切行なっていません。

不審な問い合わせがあった場合、至急ご連絡ください。

※同窓会だより『ひまわり会 NEWS』の製作は就労継続支援 B 型事業所「なの花」さんに携わっていただいています。

同窓会メール dousoukai@chiyoda.ac.jp

ホームページ <http://www.chiyoda.ac.jp/dousoukai/>

〒586-8577 大阪府河内長野市楠町西 1090 番地

千代田学園本部気付 同窓会事務局 行

Tel 0721-69-6120 Fax 0721-52-5782

ひまわり会NEWS

Vol.24

大阪千代田短期大学 〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町 1685 TEL 0721-52-4141 <http://www.chiyoda.ac.jp/>

会 報

大阪千代田短期大学

発行：ひまわり会 2025.8.1

〒586-8577
千代田学園 気付 同窓会事務局
TEL:0721-69-6120 FAX:0721-52-5782
<http://www.chiyoda.ac.jp/dousoukai/>
E-mail: dousoukai@chiyoda.ac.jp

ちよたんを子育て支援の拠点にする

大阪千代田短期大学 学長 石井 雅彦

同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本学では、2023 年に子ども自身が豊かに成長していく場として冒険遊び場「ちよたんパーク」をオープンさせました。ちよたんパークでは、附属幼稚園が「森のようちえん」を実施しており、その活動に短大の学生も参画することで幼児とのふれあいを深め、子ども理解の学習にもつなげています。また、ちよたんパークは附属幼稚園の活用のみならず、河内長野市内 24 の保育施設に開放しており、多くの子ども園・保育園が保育の場として活用されています。

今年度は新たな取り組みとして、未就園の子どもたちや保護者の皆様を対象に、ちよたんパークと学校施設（ちよたんルーム・図書館・生協食堂）を開放します。5 月 21 日（水）以降、週 1 回水曜日の開放を予定しています。晴れた日は自然を満喫し、雨の日は図書館の絵本コーナーを活用するなど楽しく過ごしてほしいと考えています。ちよたんルームには、おむつ替え・授乳スペースも整備しました。

未就園の子どもを持つ保護者は、子育ての悩みも多いと聞いています。ちよたんが、そんな保護者の皆様の交流の拠点になればいいと考えています。

ホームカミングデーにぜひお越しください

ひまわり会 会長 松原 栄子 (幼教 16 期生 旧姓：西川)

会員のみなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか。日頃から大阪千代田短期大学同窓会ひまわり会の活動にご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

母校大阪千代田短期大学は、1965 年 4 月に千代田高校内校舎で開学したのち、1996 年に現在の小山田校舎への移転を経て、2025 年 4 月で 60 周年を迎えました。

1 万人を超える卒業生は、教師や保育士、航空会社、介護福祉士などの道で活躍されています。

ちよたん 60 周年 同窓会イベントに是非ご参加を

日時 11 月 9 日 (日) 10 時~14 時まで

受付 9:30~

場所 千代田短大本館 ロビー・玄関前

実行委員長 西浦 良治 (総コミ 5 期生)

今回のイベントは、大阪千代田短期大学の 60 周年をお祝いすると共に、卒業生にむけて「今の短大を見に来ていただきたい」「お世話になった先生方に会いに来ていただきたい」という想いを強く持っています。

卒業生によるコンサート、キッチンカー出店、お話しの間など計画・準備を進めています。

イベントに参加していただくことで旧友・恩師にもお会いでき、また新たな交流のきっかけにもしていただきたいと思います。皆さまのご参加をお待ちしております。

未就園のお子さま・保護者の皆さまへ

ちよたんパーク

みんなで遊ぼう！

入場 無料

予約 不要

5.21 以降の 毎水曜日

※8/13・12/31・祝祭日の水曜日を除く

10:00 ▶ 15:00 (雨の日も開放)

11:00~12:30 保育生が参加できる日もあります

おむつ替え 授乳スペース あり

冷暖房完備のちよたんルーム、図書室、生協食堂も利用いただけます

お問い合わせ Tel.0721-52-4141

大阪千代田短期大学 〒586-8511 河内長野市小山田町 1685

第8回 保育・教育・医療フォーラム

子どもは育ちなおしの名人！

心の傷が癒えるとは…

講演 大阪千代田短大元学長 神戸大学名誉教授 広木 克行氏

河内長野ゴスペルクワイア Make Us One 「アメイジンググレイス」ほか

大阪千代田短期大学(3 階講義室)

11月9日(日) 10:00~12:00 (受付)玄関9:30~

〈主催〉保育・教育・医療フォーラム実行委員会 〈後援〉ひまわり会(大阪千代田短期大学同窓会) 〈共催〉学校法人千代田学園 社会福祉法人ちよたん福祉会おさかちよたん保育園

「いいね」してくださいね！

ひまわり会も Facebook に参加しています。



同窓生のみなさまへ 理事長 高橋 保

学校法人千代田学園は本年度 2025 年、千代田高等学校創立 75 年を迎えると共に、大阪千代田短期大学開学 60 年の記念の年とも重なります。誇らしく寿ぐ感情に包まれる一方、苦難の日々を乗り越え今日に至ったことにも思いを馳せ、本当に感慨一入です。

先の世界戦争の傷跡いまだ癒えない戦後まもなく、盛松寺住職によって設置された本学園は平和な世界を希求し、自立心に富んだ人が育つ学園を目途にして教育を紡いできました。人口急増期には溢れんばかりの生徒が集い、一転少子高齢化の進展が著しい今は、如何に安定して学生、生徒、園児を迎えるかが課題となるなど時代が大きく変化する下でも、不拔の志を大切に日々の教育活動に勤しんでいます。

ところがあるうことか、私たちの意思を挫けさせかねない事態が一気に押し寄せて来ているのです。文部科学省は定員割れの大学や短期大学を廃校や合併、統合などの再編を促し、従わなければ運営補助金や授業料支援金を打ち切るなどと脅し、大都市圏の大規模校以外の学園潰しかと訝られる事態が進展しています。

又高等学校でも大阪府の私立学校における授業料無償化が、行きたい学校に行ける仕組みづくりの点で大きく事態を改善させたのは良かったのですが、蓋を開けてみれば公立高校と同様人気校と不人気高に真二つに二分され、多くの学校が経営危機に見舞われる事態



となっています。その背景にあるのは、高校は単なる通過点と見做され、大学進学の前備校化とも見紛う序列化が進行して、上下の分断が固定化してしまう結果を生み出してしまったのです。そもそも高等学校の学びは大学受験を目途としているのでしょうか？ どうか目的と手段をどこかで取り違えてしまったようです。

教育は人との競争で勝つか負けるかが目的であって良いはずがありません。学ぶとはそもそも見識を磨き事の当否を見分ける力をつけ、一步を踏み出す勇気を育むものではなかったのか。そしてその結果、もっと学びたいとの思いを受け止めるところ、それが上級学校の上級学校たる所以などと言え、青臭いと笑われるのでしょうか。

同窓生の皆様。みなさんが巣立った本学園は全ての生徒や学生の学ぶ権利を正面に据え、より良い社会の実現とより豊かな人生は互いに補完し合う車の両輪、素敵な関係性だとの思いを大切に参りました。競争原理の下で厳しい環境に晒されていますが、これまでの足跡をしっかり踏みしめつつ、前途への希望を紡ぐべく全教職員心ひとつにして取り組む所存です。同窓諸氏のご健勝をお祈り致しますとともに、是非母校への倍旧のお力添えをお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

母校の先生

ちよたんの今

教授 島田 和秀

今年度から、千代田短大では、幼児教育で特色ある教育を目指して「音楽保育コース」「アート保育コース」「森のようちえんコース」「心理・福祉・特別支援コース」の 4 つのコース制を導入することになりました。



「森のようちえんコース」は全国でも千代田短大が初めて開設するコースです。これまで「ちよたんの森」や「ちよたんパーク」を整備してきて、附属幼稚園を始め河内長野市内の幼児教育の機関に開放してきました。そうした取り組みに、積極的に学生も関わる中で全国的にも注目されている「森のようちえん」の実践を附属幼稚園と協力しながら研究していくためのコー

スを立ち上げました。自然豊かな河内長野にある千代田短大だからこそできるコースです。

自然の中には子どもたちの好奇心を刺激する、いろいろな場所があり、生き物がいます。子どもたちの自由な発想で創意的な遊びが次々と生まれてきます。自然は子どもたちに様々な姿を提示し、驚きや感動を呼び起こします。そうしたことを通して豊かな幼児期の発達を保障する取り組みを学生とともに進めていきたいと考えています。



千代田短期大学の 60 周年に寄せて

元学長 神戸大学名誉教授 広木 克行

大阪千代田短期大学の 60 周年を心から喜んでいます。

それは、短大存続の困難という、新聞も大きく報じるほどの事態に直面しながらも、60 周年を祝う発信には、さらにこれからの短大のあり方を模索し探究しようという姿勢を感じ取ることが出来るからです。

中略

千代田短大で学長兼教員として勤務し、「保育原理」などの講義をおこなっていました。当時の講義を振り返ってみると、私は、幼児期の育ちが人間の一生に如何に大きな影響を与えるかについてと、保育士の仕事 が現代社会の維持と発展にとって非常に大切な仕事であることを、分かりやすく学生たちに伝えようと懸命でした。

たとえば幼児の育ちからみた保育の役割について、

卒業生の今

学びとともに

寺坂 佐恵子（幼教 4 期生）

昨年 9 月に、和歌山で開催された日本母親大会に 4 期生の 4 人で参加しました。4 人そろっての学びの場は 55 年ぶりで、新鮮でもあり楽しくもありました。全大会の記念講演「第五福竜丸 ビキニ水爆実験 70 年 世界ヒバクシャとともに核兵器なき地球を」に深く学び共感しました。また、全国各地からの母親運動のたえまなき取り組み・たたかいに熱い思いをよせました。

そのあと、友宅の宿泊では、枕を並べてのとりとめない会話もはずみました。

翌日「作家 有吉佐和子が時代に問いかけたもの」の分科会に参加しより充実した 2 日間になりました。

現役時代になかなか参加できなかった母親大会は「生命を生み出す母親は生命を育て 生命を守ることをのぞみます」のスローガンのもと 69 回大会へと運動を続けられた歴史の重みを感じました。

今年は 11 月に 13 回忌となる友（元学生自治会委員長）の墓参に集う予定です。



過ぎ去った充実した 7 年間

西田 茂（幼教 52 期生）

今思えば、千代田短大卒業前の 1 か月間の事、シニア人材育成講習（保育補助・介護補助・障がい者支援）を受ける中で取材を受けることになり、ハローワークから学校、そして職場となる保育園までクルーが入り迷惑をおかけしたとおもいます。しかし、それでも私は初めての経験で楽しかった。

保育園では保育補助として、見守り活動をパートで働いています。お迎えの時間がきたら、その時何のトラブルも起こらないように気をつけなければなりません。結構気を使います。それを 7 年間おこなって今年の 4 月から 8 年目に入ります。たくさんの園児が卒園していく姿を見てきました。シニア世代の私としては、自分の子どももそうですが、今の子ども達の今後がやはり一番気にかかることです。無事に成長していつてほしいと祈るばかりです。

念願のカフェ オープンしました

新宮 英子（旧姓・坂田）（幼教 16 期生）

60 歳で保育園を退職後、3 月に念願のカフェをオープンしました。自宅の 1 階に 5 坪というちいさなお店です。

短大時代の友人は、昔から私がお店をしたい、と言っていたことを覚えてくれていて、オープンしてからは大勢がお祝いにかけつけてくれました。

看板はお祝いに頂いたものです。近くまでお越しの際はぜひお立ち寄りください！



40 年来の友人から
プレゼントされた看板